
**2017年3月期
第1四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

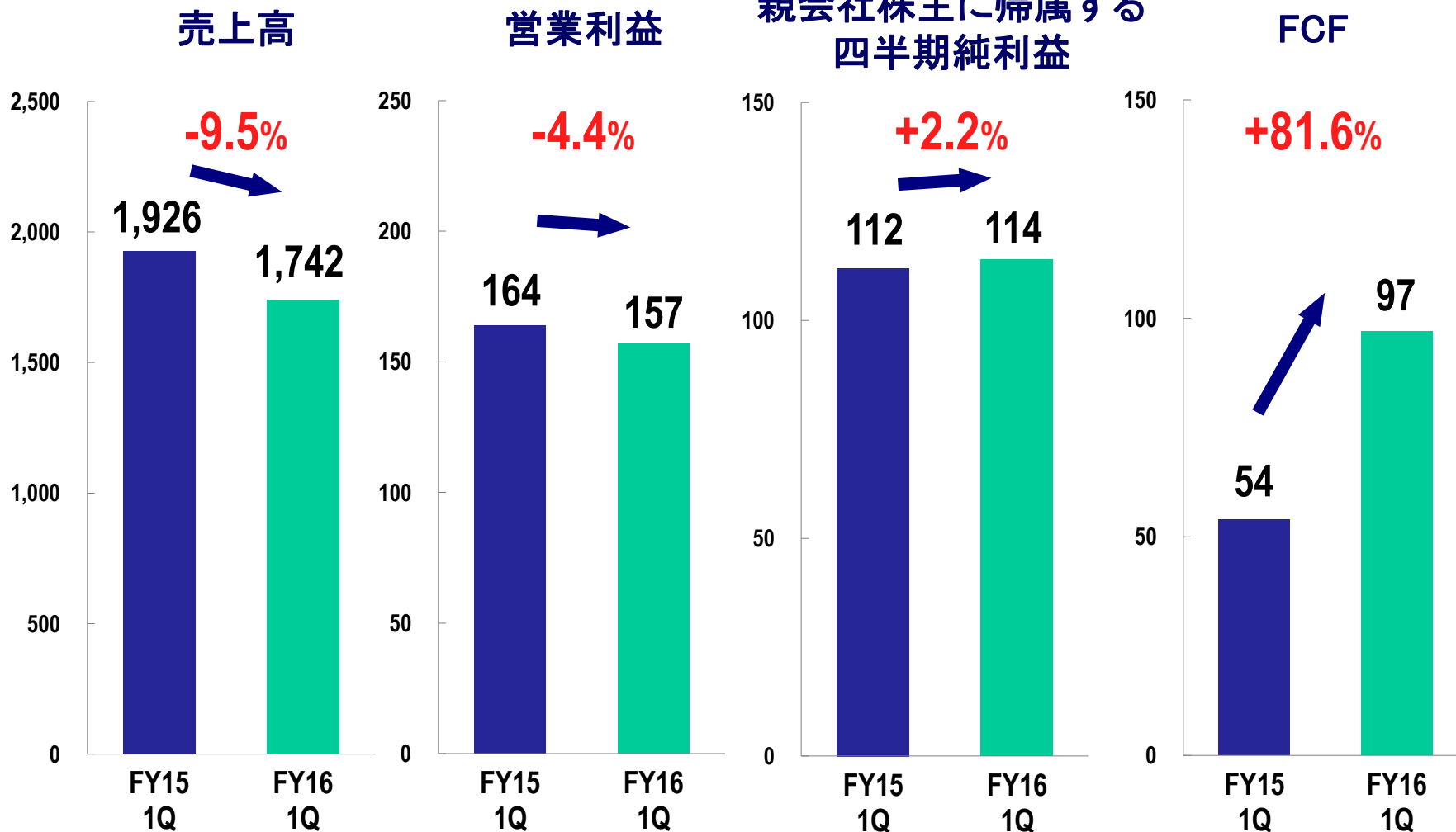
帝人株式会社
2016年8月2日

第1四半期決算概況

(1) 2017年3月期 第1四半期決算概況

第1四半期累計(前年同期比)

(億円)



◆ 経営成績 (億円)	15年度 1Q	16年度 1Q	差異 金額
売上高	1,926	1,742	-183
営業利益	164	157	-7
<営業利益率>	8.5%	9.0%	+0.5%
営業外損益	16	-13	-29
経常利益	180	144	-36
特別損益	-13	-6	+6
税金等調整前 四半期純利益	167	138	-29
法人税等	55	22	-32
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	1	+1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112	114	+2
EPS(円)	11.39	11.63	+0.24

EBITDA *1	259	251	-8
設備投資 *2	67	89	+22
減価償却費	95	94	-1
研究開発費	80	73	-6
FCF	54	97	+44

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 *2: 設備投資には無形固定資産を含む

■ 売上高 減収

- 各事業の販売は総じて堅調に推移
円高と樹脂事業の構造改革に伴う
生産体制適正化の影響で減収

■ 営業利益・経常利益 減益

- 為替影響や薬価改定により減益も、
既存事業の成長と構造改革により
営業利益率は改善
- 為替差損の発生等で営業外収支悪化

■ 純利益 横ばい

- 税効果会計の影響等が寄与

◇ PL換算レート	15年度 1Q	16年度 1Q
円/米ドル	121	108
円/ユーロ	134	122
米ドル/ユーロ	1.11	1.13

◆ 営業外損益

(億円)	15年度 1Q	16年度 1Q	差異 金額
受取利息	2	2	-0
受取配当金	9	11	+1
持分法による投資利益	9	8	-1
為替差益・ デリバティブ評価益	6	—	-6
雑収入	2	2	+0
営業外収益 計	28	23	-5
支払利息	6	5	-1
為替差損・ デリバティブ評価損	—	25	+25
雑損失	6	5	-1
営業外費用 計	13	36	+23
営業外損益 計	16	-13	-29

◆ 特別損益

(億円)	15年度 1Q	16年度 1Q	差異 金額
固定資産売却益	1	2	+1
事業構造改善引当金 戻入額	1	4	+3
その他	0	1	+1
特別利益 計	2	7	+5
固定資産除売却損	3	2	-1
減損損失	5	3	-1
投資有価証券評価損	0	1	+1
事業構造改善費用	4	6	+2
その他	3	1	-2
特別損失 計	15	14	-1
特別損益 計	-13	-6	+6

◆ 財政状態

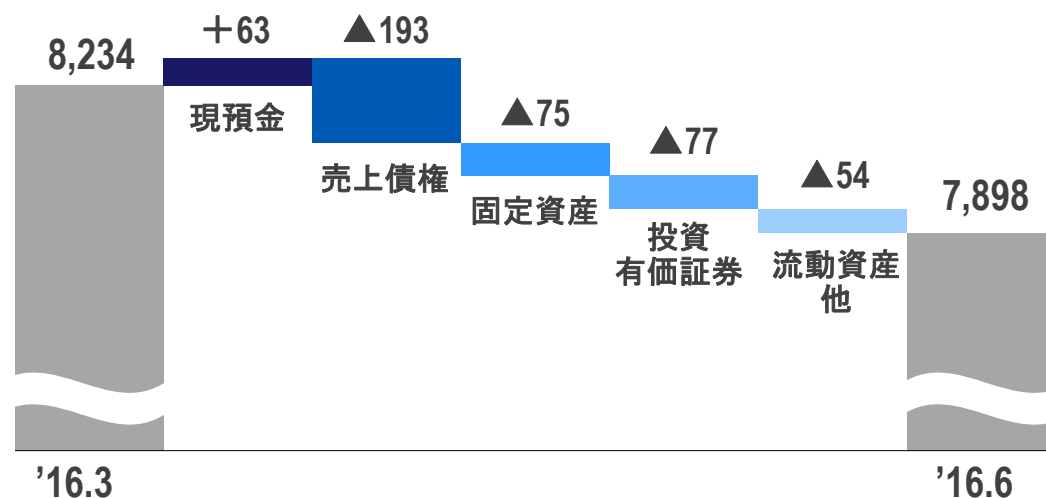
(億円)	16年 3月末	16年 6月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	8,234	7,898	-336	-215
自己資本	3,001	2,903	-99	-108
有利子負債	3,033	2,978	-55	-57
D/Eレシオ	1.01	1.03	+0.02	
自己資本比率	36.4%	36.8%	+0.3%	

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	15年度 1Q	16年度 1Q	差異
営業活動	125	206	+82
投資活動	-71	-109	-38
FCF	54	97	+44
財務活動他	-193	-35	+158
現金及び 現金同等物増減	-139	62	+202

* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく
四半期レビューの対象外

◇ 総資産増減内訳



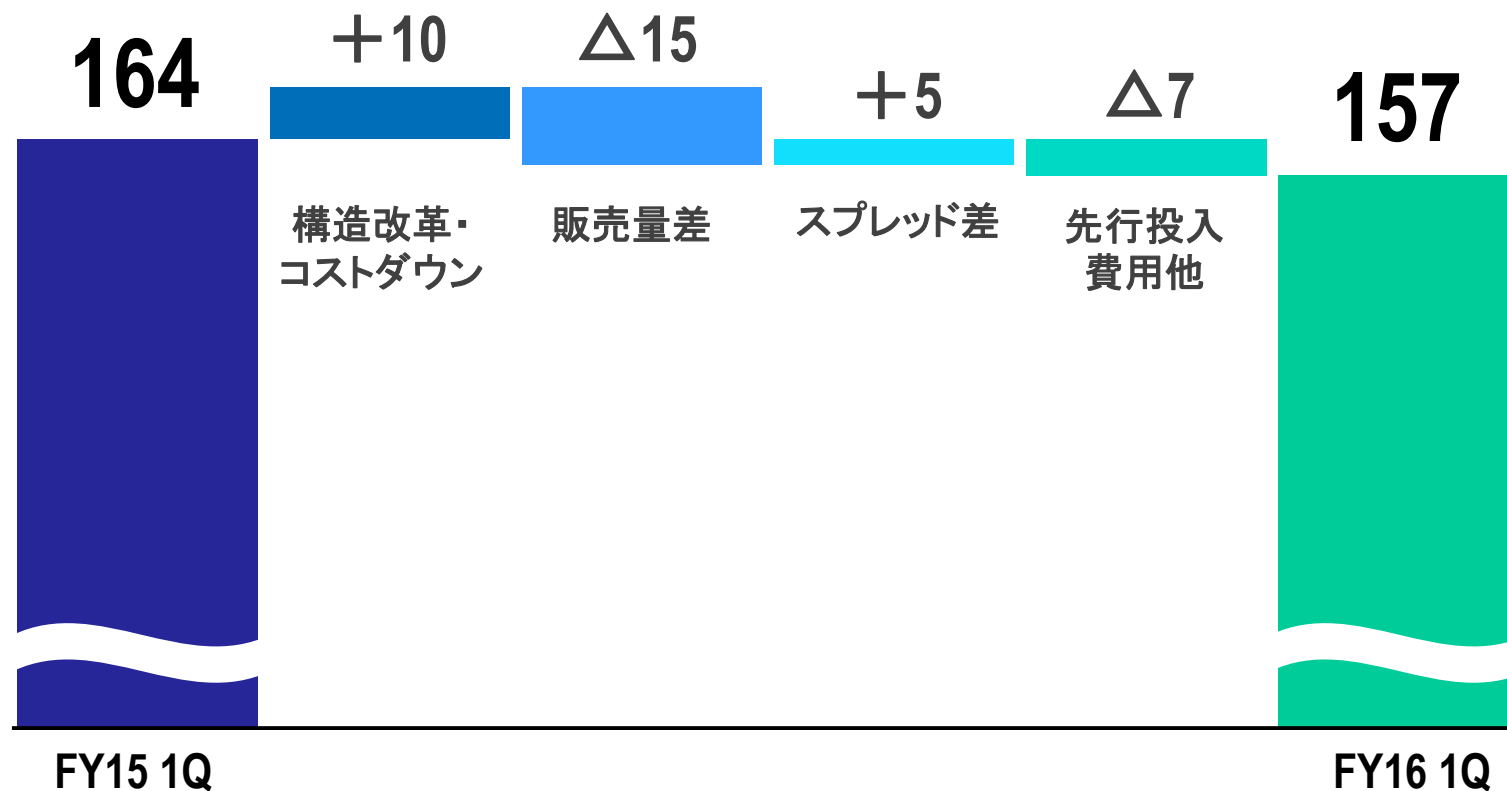
◇ BS換算レート

	16年 3月末	16年 6月末
円／米ドル	113	103
円／ユーロ	128	114
米ドル／ユーロ	1.13	1.11

◆ 営業利益増減分析

構造改革等によるコストダウン効果はあるが、樹脂事業の販売量減、アラミド繊維事業での大型定修により若干の減益

(億円)



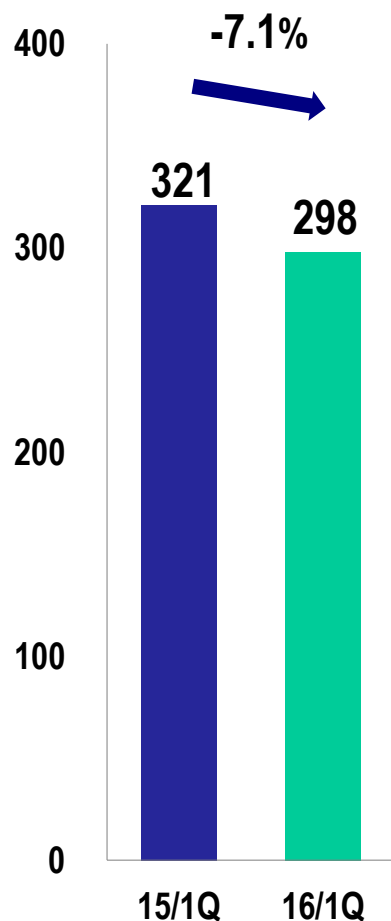
(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	15年度 1Q	16年度 1Q	差異	増減率	15年度 1Q	16年度 1Q	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	321	298	-23	-7.1%	36	36	-1	-1.6%
電子材料・化成品	448	336	-112	-25.0%	62	56	-6	-9.1%
ヘルスケア	380	374	-6	-1.5%	89	86	-3	-3.3%
製品	614	592	-21	-3.5%	10	14	+3	+33.3%
計	1,763	1,601	-162	-9.2%	197	192	-6	-2.9%
その他	163	141	-22	-13.3%	5	3	-2	-43.4%
消去又は全社	—	—	—	—	-39	-38	+1	—
合計	1,926	1,742	-183	-9.5%	164	157	-7	-4.4%

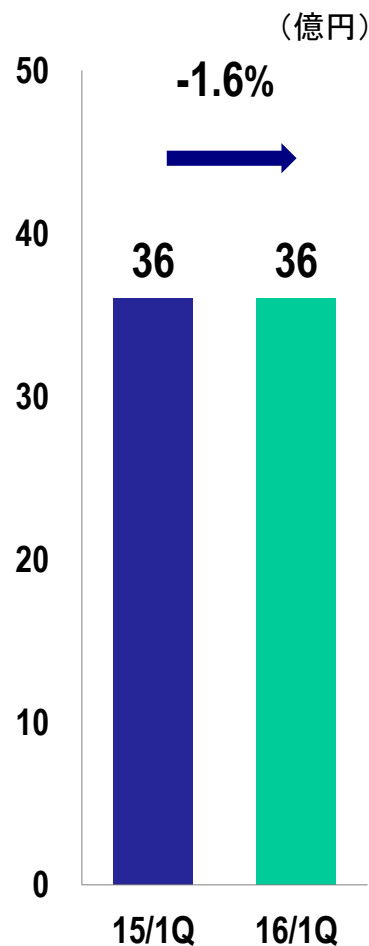
1. 高機能繊維・複合材料事業

販売は堅調ながら定修要因と為替影響により減収・減益

売上高



営業利益



(億円)	15/1Q	16/1Q	差異	増減率
売上高	321	298	-23	-7.1%
営業利益	36	36	-1	-1.6%

■ 高機能繊維

パラアラミド繊維:

- ・ 自動車(タイヤ・摩擦材)用途が順調に拡大
- ・ 油田採掘関連用途の一部は低調推移
- ・ 「トワロン」大規模定修を実施

メタアラミド繊維:

- ・ フィルター用途は激しい競争環境が継続
- ・ 自動車関連、防護衣料、産業資材用途は堅調

ポリエステル繊維:

- ・ タイの自動車用途や衛材・詰綿等が堅調
- ・ 国内生産体制再編とタイへの生産移管を推進

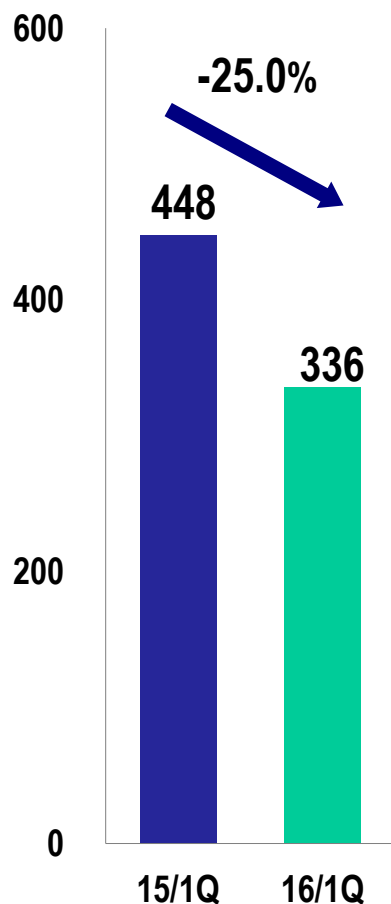
■ 炭素繊維・複合材料

- ・ 航空機用途は順調に推移
- ・ 欧州・アジア向け一般産業用途の販売堅調
- ・ 耐炎繊維は航空機ブレーキ材向けが好調

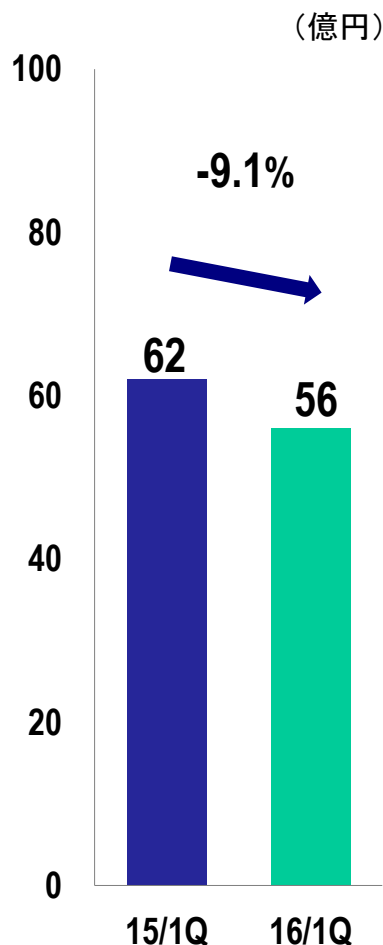
2. 電子材料・化成事業

汎用品ビジネスの縮減や為替影響により減収・減益

売上高



営業利益



(億円)	15/1Q	16/1Q	差異	増減率
売上高	448	336	-112	-25.0%
営業利益	62	56	-6	-9.1%

■ 樹脂

PC樹脂:

- ・ シンガポール工場停止により販売量は減少も、生産体制適正化・販売構成の改善により利益率は改善
- ・ 住宅設備用途向け商品開発の推進等、高機能コンパウンド品の拡大に注力

機能樹脂:

- ・ カメラレンズ用特殊PCのラインナップ拡充

■ フィルム

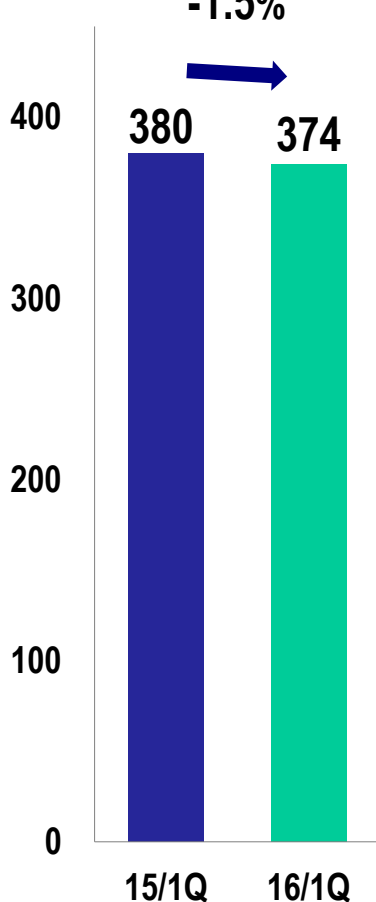
- ・ 工程用離型フィルムや特殊包装用途の輸出品は堅調に推移
- ・ 液晶TV向け反射板は厳しい競争環境が継続
- ・ 有機ELディスプレイ(OLED)向け逆波長分散フィルムの販売は順調に拡大

3. ヘルスケア事業

薬価・診療報酬改定影響を吸収して、売上高・利益ともほぼ横ばい

売上高

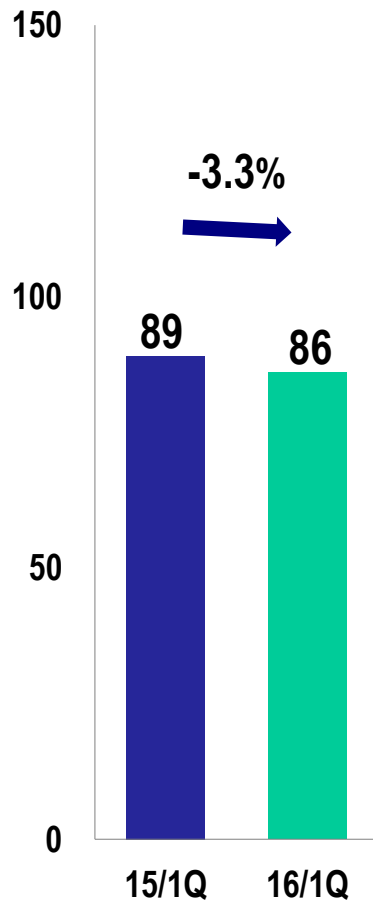
-1.5%



営業利益

(億円)

-3.3%



(億円)	15/1Q	16/1Q	差異	増減率
売上高	380	374	-6	-1.5%
営業利益	89	86	-3	-3.3%

■ 医薬品

- ・ 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブキソスタット」、先端巨大症治療剤「ソマチュリン*1」等の新薬群が順調に拡大
- ・ 長期収載品は厳しい事業環境続くも、骨粗鬆症治療剤「ボナロン*2」、去痰剤「ムコソルバン」の剤形追加品の拡大に注力

■ 在宅医療

- ・ HOT: 高水準のレンタル台数を維持
- ・ CPAP: レンタル台数は着実に伸長
新機種投入により更なる拡大を目指す
- ・ 米国では厳しい事業環境が継続
営業所の統廃合等の改善策を推進

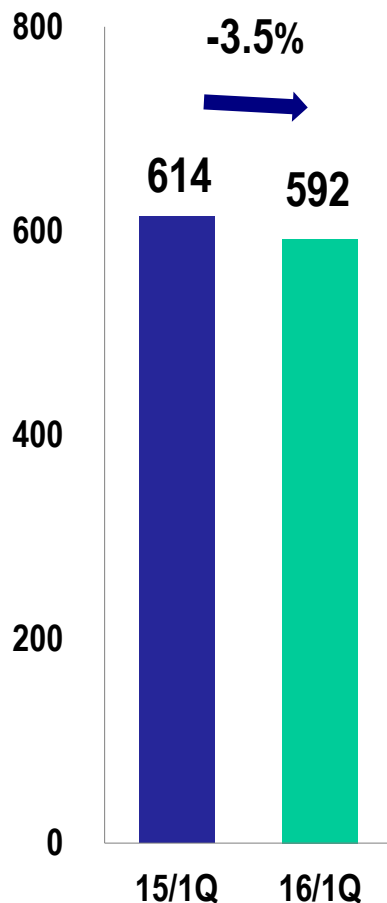
*1 ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharmaの登録商標です

*2 ボナロン®/Bonalon®はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です

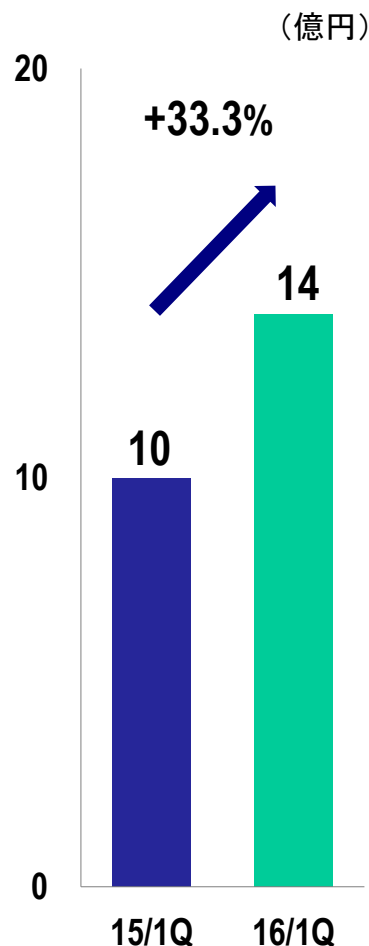
4. 製品事業

差別化商品の拡販により、売上微減ながら利益率が改善して増益

売上高



営業利益



(億円)	15/1Q	16/1Q	差異	増減率
売上高	614	592	-21	-3.5%
営業利益	10	14	+3	+33.3%

◇ 衣料繊維

- ・ 欧米のスポーツ・アウトドア市場で高機能素材の販売は好調
- ・ 差別化ナイロン素材の本格展開等、新素材・新製品の拡販に注力
- ・ 国内市況は低迷も、一部の紳士服専門店等向けの好調を受け、衣料製品全体では、堅調な推移

◇ 産業資材

- ・ 自動車部材関連はタイヤコード・カーシート等が好調に推移、エアバック・伝動ベルト・ホース等も堅調
- ・ 土木資材用途や衛生用品関連の販売は堅調も、化成品関連の販売は苦戦

(3)主要アクション(2016年4月以降)

重点戦略事業の拡大 / 商品ラインナップ強化



既存薬の適応症追加・拡大

・高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク錠」

「がん化学療法に伴う高尿酸血症」に対する適応追加の承認を取得

・先端巨大症および下垂体性巨人症治療剤「ソマチュリン」

「神経内分泌腫瘍」に対する適応追加を申請

ヘルスケア

ソリューション展開

高機能繊維・
複合材料

超軽量天井材「かるてん」の展開

ポリエステル製タテ型不織布「V-Lap」を基材とする天井材
複合商業施設(イオンモール今治新都市)にも採用
新たな耐震工法「かるてんTB工法」を開発、今夏より展開へ



新事業開拓

スーパー大麦「バーリーマックス」試験販売開始

オーストラリア連邦科学産業研究機構が開発した

非遺伝子組み換え大麦

帝人のポリマー解析技術や、ヘルスケア領域における
エビデンス評価の知見などを活用

新事業



2017年3月期 通期業績見通し

◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	15年度 実績	16年度 見通し	差異		16年度 前回見通し*	前回見通しと の差異(金額)
			金額	%		
売上高	7,907	7,400	-507	-6.4%	7,750	-350
営業利益	671	530	-141	-21.0%	580	-50
<営業利益率>	8.5%	7.2%	—	-1.3%	7.5%	-0.3%
経常利益	603	530	-73	-12.1%	580	-50
親会社株主に帰属する 当期純利益	311	350	+39	+12.6%	360	-10
設備投資 *1	383	530	+147		550	-20
減価償却費	389	385	-4		400	-15
研究開発費	333	360	+27		340	+20
FCF	403	120	-283		100	+20

*1 設備投資には無形固定資産を含む

*2 前回見通しは2016年5月6日公表

2016年度見通し前提

通期為替レート 米ドル=106円、ユーロ=118円

原油価格(Dubai) 45米ドル/バレル

配当予想*

中間 5円/株 年間 10円/株

*前回見通しから変更なし
(株式併合を考慮しないベースで記載)

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移(前年実績対比)

		15年度実績			16年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
(億円)								
売上高	高機能繊維・複合材料	654	676	1,330	600	650	1,250	-80
	電子材料・化成品	873	764	1,637	650	650	1,300	-337
	ヘルスケア	748	727	1,475	700	700	1,400	-75
	製品	1,301	1,408	2,709	1,250	1,500	2,750	+41
	計	3,577	3,575	7,152	3,200	3,500	6,700	-452
	その他	344	412	756	300	400	700	-56
	合計	3,921	3,987	7,907	3,500	3,900	7,400	-507
営業利益	高機能繊維・複合材料	93	92	185	75	85	160	-25
	電子材料・化成品	119	104	223	80	55	135	-88
	ヘルスケア	168	120	288	115	155	270	-18
	製品	22	31	53	25	35	60	+7
	計	401	348	749	295	330	625	-124
	その他	19	46	65	15	50	65	+0
	消去又は全社	-67	-76	-143	-80	-80	-160	-17
合計	353	318	671	230	300	530	-141	

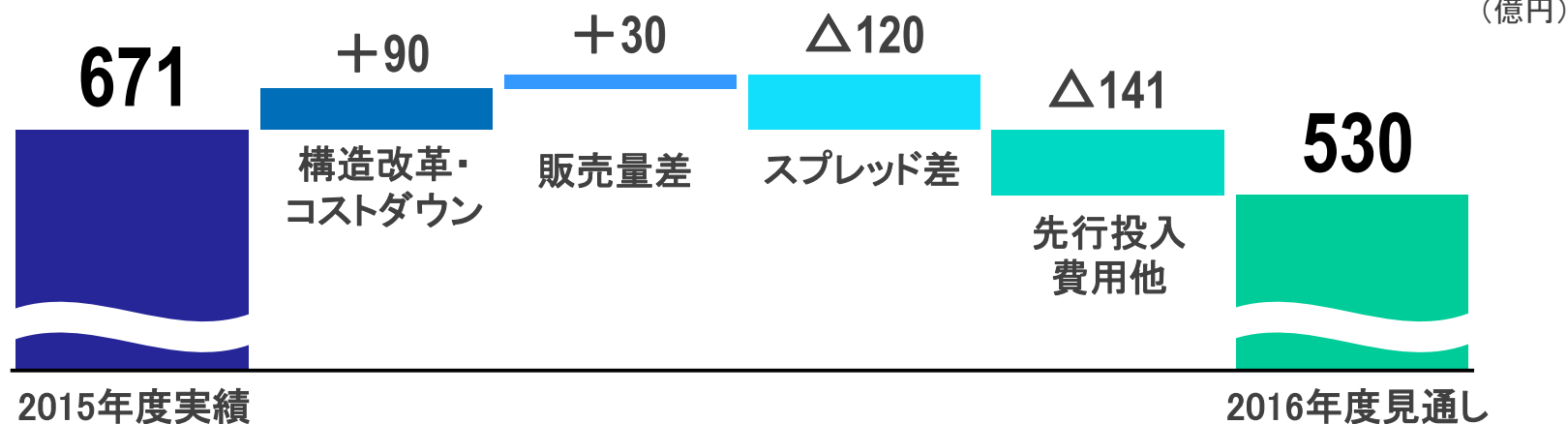
◆ セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

* 前回見通しは2016年5月6日公表

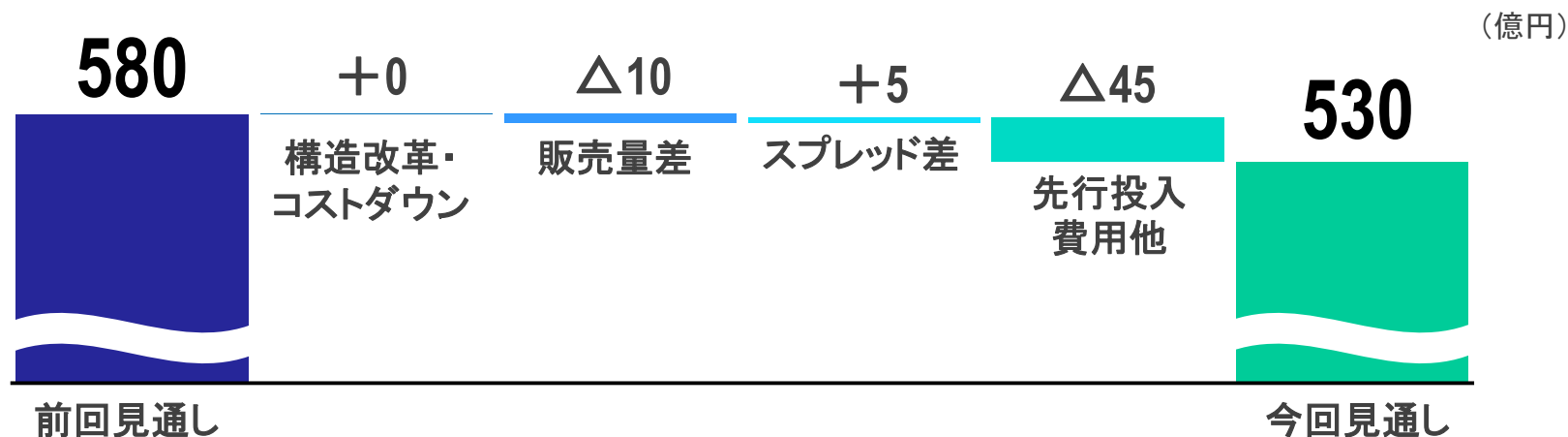
(億円)

		16年度 前回見通し*			今回見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	650	700	1,350	600	650	1,250	-100
	電子材料・化成品	700	700	1,400	650	650	1,300	-100
	ヘルスケア	700	750	1,450	700	700	1,400	-50
	製品	1,300	1,500	2,800	1,250	1,500	2,750	-50
	計	3,350	3,650	7,000	3,200	3,500	6,700	-300
	その他	350	400	750	300	400	700	-50
	合計	3,700	4,050	7,750	3,500	3,900	7,400	-350
営業利益	高機能繊維・複合材料	75	110	185	75	85	160	-25
	電子材料・化成品	75	60	135	80	55	135	—
	ヘルスケア	140	160	300	115	155	270	-30
	製品	25	35	60	25	35	60	—
	計	315	365	680	295	330	625	-55
	その他	10	55	65	15	50	65	—
	消去又は全社	-85	-80	-165	-80	-80	-160	+5
	合計	240	340	580	230	300	530	-50

◆ 営業利益増減分析

2015年度実績
対比構造改革効果が発現する一方で、一部の事業での取引条件悪化
や薬価改定に加え、先行投入費用の増加を見込む前回見通し
対比

先行投入費用の増加、および為替前提の見直しを反映する



◆ 主要経営指標

	12年度 実績	13年度 実績	14年度 実績	15年度 実績	16年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.6%	2.4%	4.9%	8.2%	6.4%
ROE：当期利益／自己資本*1	-10.3%	3.0%	-2.8%	10.6%	11.5%
売上高営業利益率	1.7%	2.3%	5.0%	8.5%	7.2%
D/Eレシオ*2	1.00	1.00	1.07	1.01	1.0
自己資本比率	35.6%	36.7%	34.9%	36.4%	36.7%
1株当たり当期純利益(円)	-29.6	8.5	-8.2	31.6	*335.6
1株当たり配当金(円)	4.0	4.0	4.0	7.0	*310.0
総資産(億円)	7,624	7,684	8,237	8,234	8,450
有利子負債(億円)	2,708	2,815	3,082	3,033	3,000
EBITDA(億円)*4	592	637	821	1,060	915

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 株式併合を考慮しないベースで記載

*4 「営業利益+減価償却費」にて算出

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動が事業業績に影響を及ぼす可能性があります。

② 製品の品質にかかもの

事業活動全般において品質保証を確保する体制を敷いていますが、製品・サービスの欠陥が業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 研究開発にかかもの

研究開発に対し積極的に経営資源を投入していますが、特に医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2016年8月2日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

	14年 9月末	14年 12月末	15年 3月末	15年 6月末	15年 9月末	15年 12月末	16年 3月末	16年 6月末
(億円)								
資産 合計	7,798	8,327	8,237	8,164	8,027	8,219	8,234	7,898
流動資産	3,708	4,131	4,060	3,956	3,956	4,150	4,305	4,137
固定資産	4,090	4,196	4,177	4,208	4,071	4,069	3,929	3,761
負債・純資産 合計	7,798	8,327	8,237	8,164	8,027	8,219	8,234	7,898
負債	4,993	5,391	5,201	4,963	4,838	4,918	5,090	4,855
(内 有利子負債)	3,020	3,173	3,082	2,943	2,836	2,811	3,033	2,978
純資産	2,805	2,936	3,036	3,202	3,190	3,301	3,144	3,043

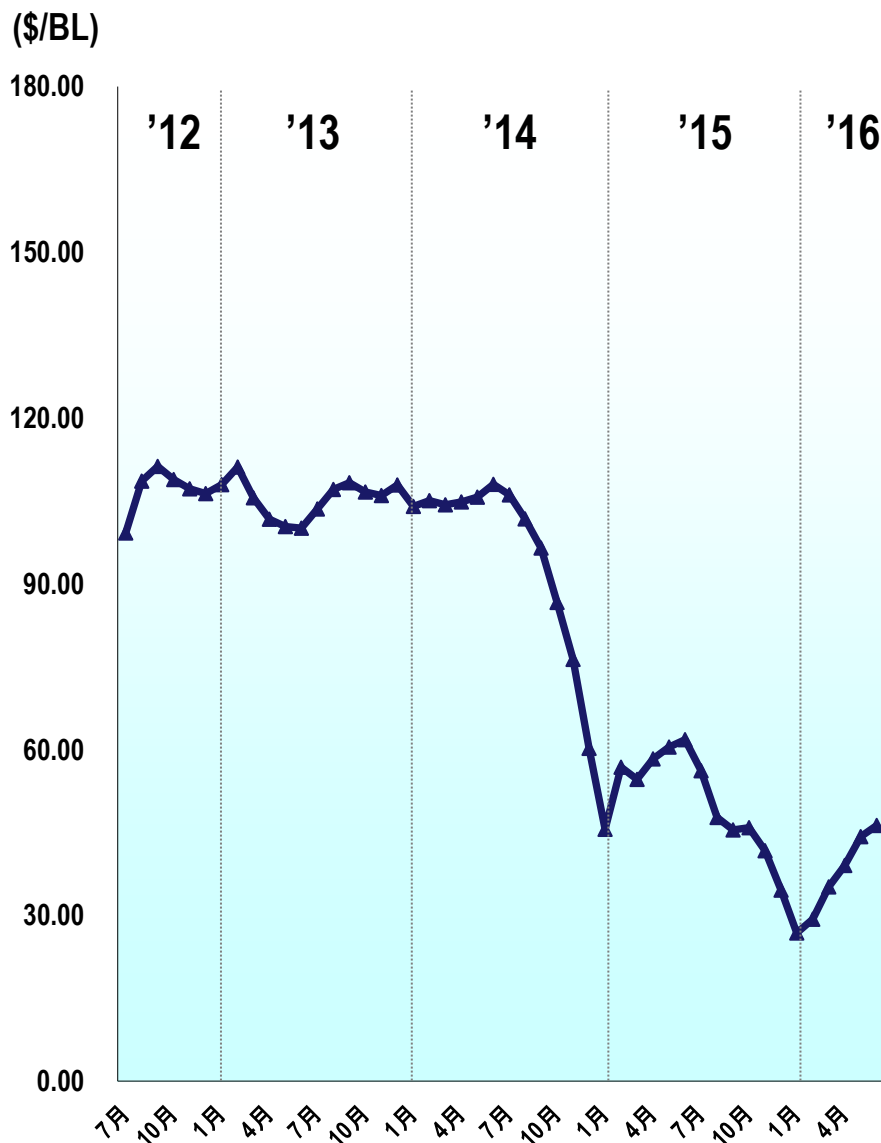
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	15年度				16年度	15年1Q 16年1Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	1,926	1,995	1,992	1,995	1,742	-183
売上原価	1,308	1,345	1,340	1,370	1,131	-178
売上総利益	617	650	653	624	612	-6
販管費	453	461	451	508	455	+1
営業利益	164	189	201	116	157	-7
営業外損益	16	-11	8	-81	-13	-29
（内 金融収支）	5	-5	1	-3	7	+2
（内 持分法投資損益）	9	11	5	-55	8	-1
経常利益	180	179	210	35	144	-36
特別損益	-13	-16	-78	-41	-6	+6
税前利益	167	163	132	-6	138	-29
法人税等	55	35	43	31	22	-32
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	-4	-16	1	1	+1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112	133	105	-38	114	+2

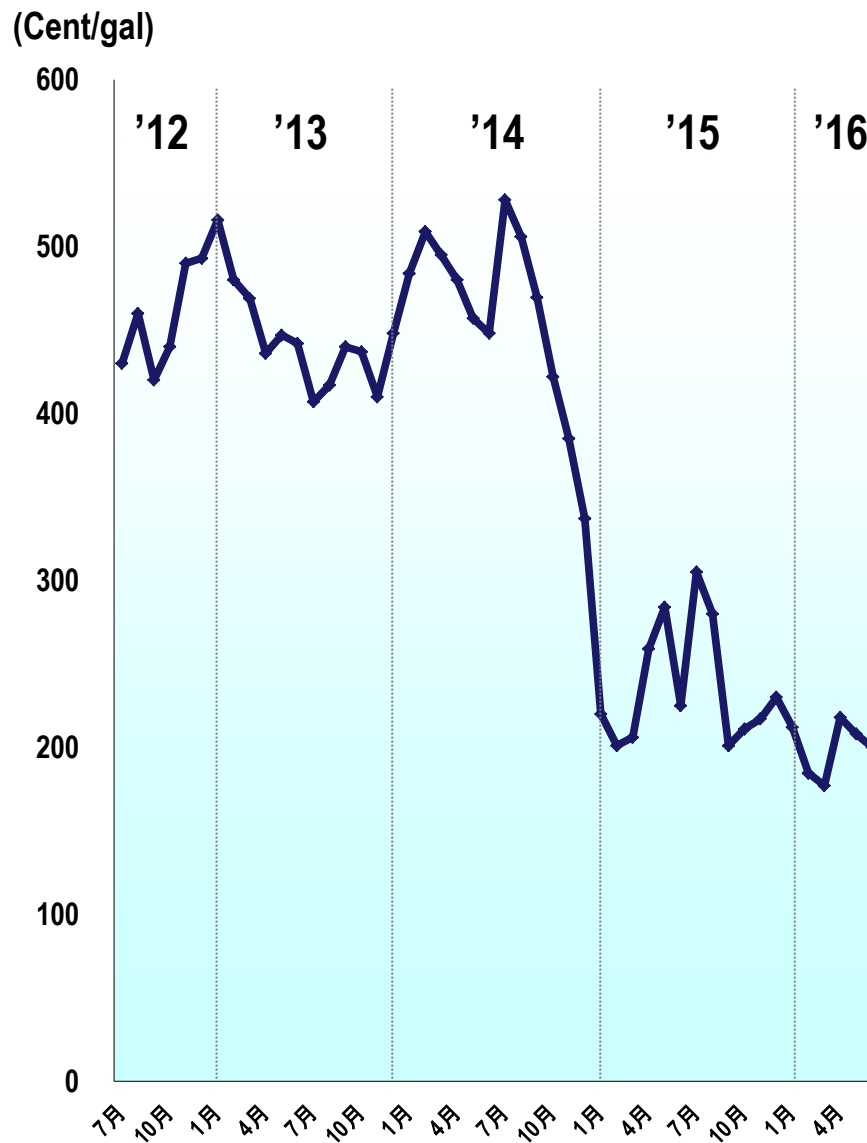
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ ドバイ原油価格推移



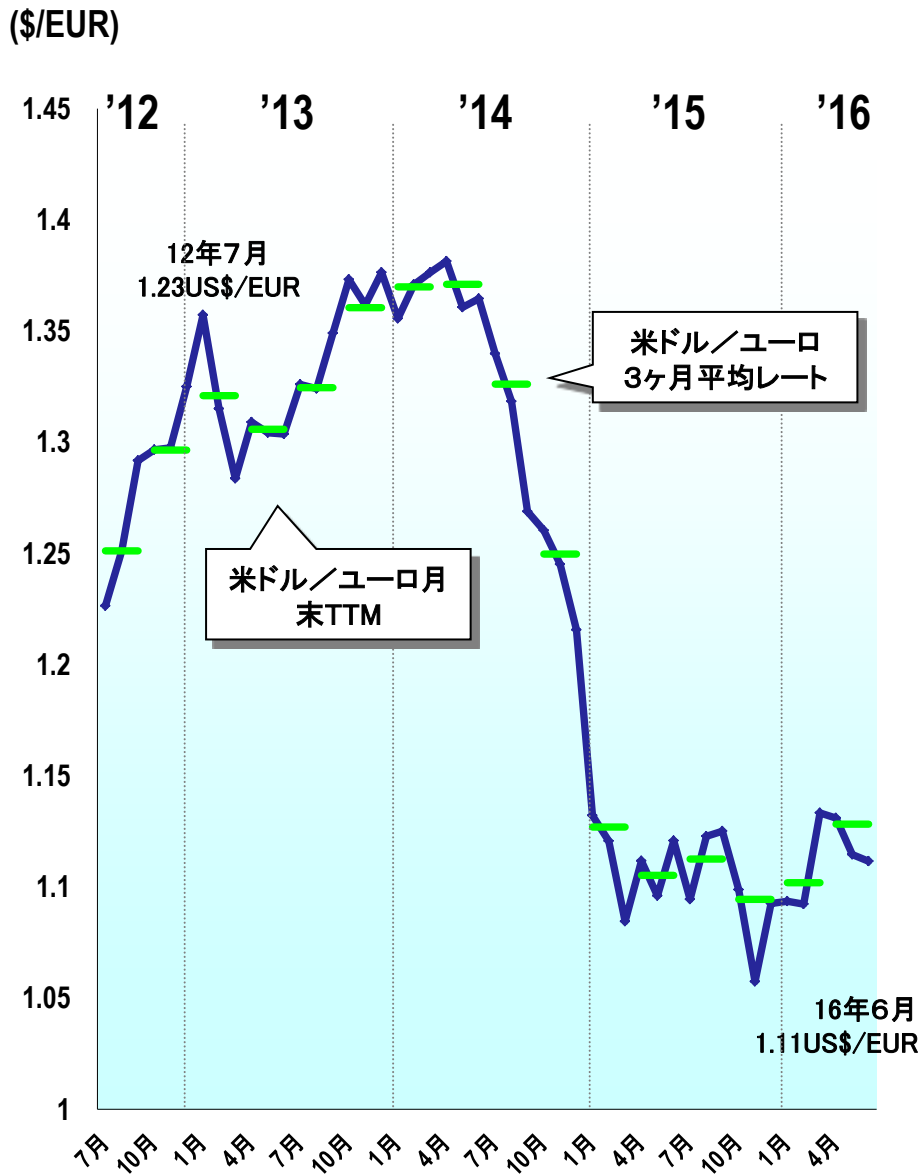
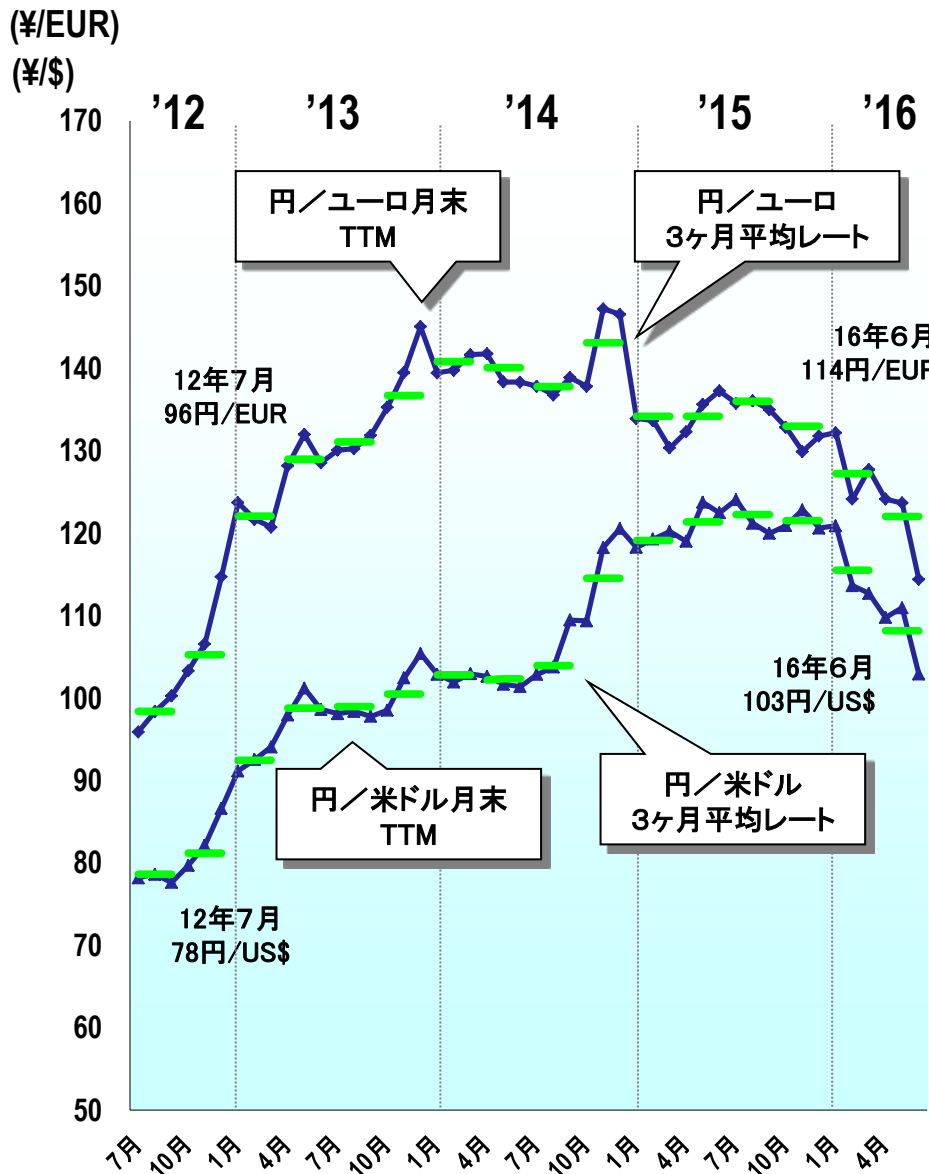
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



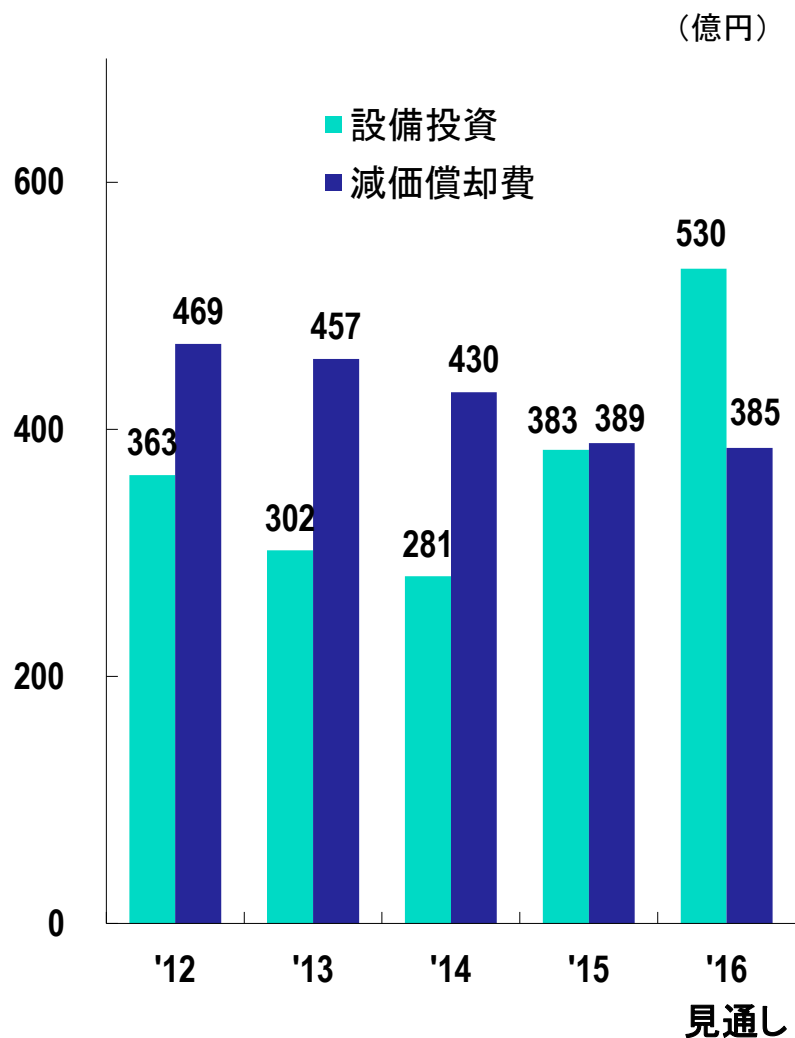
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円／米ドル、円／ユーロ為替レート推移

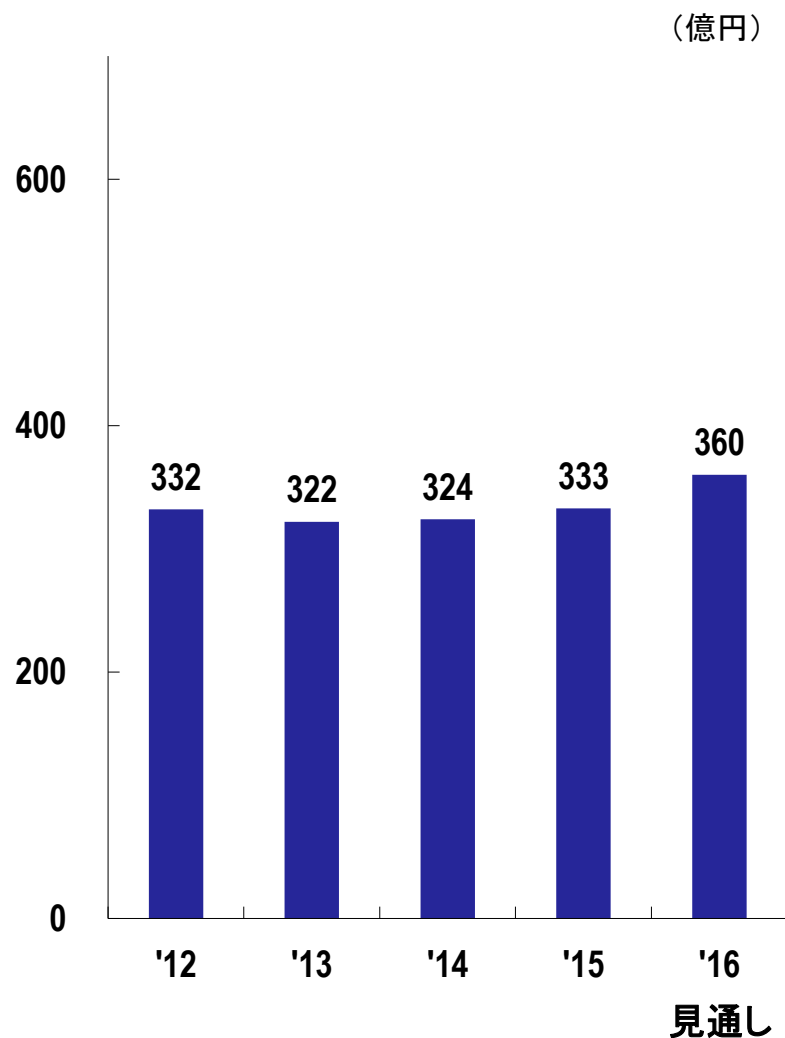


◆ 設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



◆ 主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	15年度					16年度 1Q
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	
ボナロン [®] *	骨粗鬆症治療剤	33	33	35	28	129	31
ワンアルファ [®]	骨粗鬆症治療剤	13	13	13	10	49	10
骨粗鬆症治療剤 計		46	46	49	38	178	41
フェブリク [®]	高尿酸血症・痛風治療剤	48	52	60	53	213	64
ムコソルバン [®]	去痰剤	18	14	20	15	68	14
ベニロン [®]	重症感染症治療剤	25	0	13	6	44	10
ラキソベロン [®]	緩下剤	7	7	7	5	26	5
トライコア [®]	高脂血症治療剤	4	4	4	4	16	4
ソマチュリン [®] *	先端巨大症・ 下垂体性巨人症治療剤	3	4	4	4	15	4
オルベスコ [®]	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3

* ボナロン[®]/Bonalon[®] はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。* ソマチュリン[®]/Somatuline[®] は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認／ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058 KTP-001			
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・ 循環器領 域	TMG-123 TMX-049	ITM-014N [ソマチュリン*1] (適応追加: 神 経内分泌腫瘍)	STM-279	TMX-67 [フェブキシスタット] (中国)	TMX-67TLS [フェブリク] (適応追加: 腫瘍 崩壊症候群)*2
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (適応追加①: 視神経炎<ON>) (適応追加②: 顕微鏡的多発血管 炎<MPA>) (適応追加③: 慢性炎症性脱髄性 多発根神経炎<CIDP>)		

* 承認／新規上市は直近1年間を記載

*1 ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharmaの登録商標です

*2 フェブリクの腫瘍崩壊症候群への適応拡大として開発中のTMX-67TLSは、2016年5月「がん化学療法に伴う高尿酸血症」に対する適応追加の承認を取得

◆ 新規開発医薬品 (2016年6月末現在)

【承認取得】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67TLS (フェブキソスタット)	腫瘍崩壊症候 群	本剤の強力な尿酸生成抑制作用により、1日1回の投与で、悪性腫瘍に対する化学療法に伴う高尿酸血症の発症を抑制することが期待される。	錠剤	自社開発品 (適応追加) 2016年5月「がん化学療法に伴う高尿酸血症」に対する承認を取得

【承認申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・ 痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL (Quality of Life) 向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発:アステラス製 薬(中国)有限 公司 2015年11月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2016年6月末現在)

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
STM-279	ADA(アデニン・デアミナーゼ)欠損症	本剤(ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体)は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症(SCID)の発症を回避することが期待される。	注射	導入: 英シグマタウ社

◆ 新規開発医薬品 (2016年6月末現在)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導(直接的作用)や細胞栄養因子の分泌制御(間接的作用)を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社(適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、小森博達氏 共同開発: 化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序(CRTh2拮抗作用)によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果(軽症患者)や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果(軽症~重症の患者)が期待される。	錠剤	導入: 英プルマジェン・セラピューティクス(アズマ)リミテッド社

◆ 新規開発医薬品 (2016年6月末現在)

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。 新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 導入品目の状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2015年3月	大正製薬(株)	変形性関節症の鎮痛・消炎を適応症とした、エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤TT-063の国内における販売権許諾契約を締結 (2015年9月：大正製薬(株)が製造販売承認を取得) (2016年1月：「ロコアテープ」として大正富山医薬品(株)と共同販売を開始)

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。